

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル 3PRA 分科会

第 22 回会合議事録

日時：2016 年 4 月 27 日（水）13:30～16:30

場所：日本原子力発電（株） 本店 第 4 会議室

出席者：

委員： 本間主査(JAEA)、成宮幹事（関電）、木村幹事（JAEA）、石川（CTC）、伊藤(原電)、
斯波（JANUS）、高橋(京大)、田原（東芝）、橋本（JANSI）、泥谷(NEL)、堀(MHI)、
湊(日立 GE)、向原(TEPSYS) 13 名出席

委員候補：津崎（電中研） 1 名出席

常時参加者：鈴木(規制庁)、武部（原燃）、中村（電中研）、林（野村代理、関電）、藤井（福
井代理、関電）、松本（GNES） 6 名出席

配布資料：

P8SC22-1：第 21 回 レベル 3PRA 分科会議事録（案）

P8SC22-2：人事について

P8SC22-3-1：コメント対応表（リスク専門部会書面投票）

P8SC22-3-2：コメント対応表（標準委員会・リスク専門部会意見募集結果）

P8SC22-4：主査指摘への対応について

P8SC22-5：標準文案（リスク専門部会書面投票版）

P8SC22-6：2016 春の年会企画セッション 議事メモ及び資料

P8SC22-7：レベル 3PRA 分科会 標準改定スケジュール（案）

参考資料：

P8SC22-参考 1：レベル 3PRA 分科会 名簿

P8SC22-参考 2：標準作成の手引き（抜粋）

議事：

1. 定足数の確認、配布資料の確認

委員 19 名中 13 名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが確認された。

2. 前回議事録の確認（P8SC22-1）

前回（第 21 回）議事録の内容を確認し、議事録は確定された。

3. 人事について(P8SC22-2)

津崎委員候補の選任の審議を行い、承認された。また、小倉委員の退任及び高原常時参

加者の解除について報告された。

4. リスク専門部会書面投票コメントへの対応について (P8SC22-3-1, P8SC22-3-2)

成宮幹事より、リスク専門部会書面投票に伴うコメント対応表及び意見募集結果の説明があり、対応方針について議論をおこなった。本日の議論を受けて対応要となった箇所については、リスク専門部会の前にもう一度分科会を開催し、確認することとなった。それぞれのコメントの対応方針は以下の通り（議論があった箇所のみ記載）。

<コメント No.3>

ウォッシュアウトの対象としては、「放射性物質」で統一することとする。

<コメント No.4>

本標準における「放出開始時期」は、「時点」ではなく「時間（間隔）」を表すものであり、レベル 2PRA 標準との整合を図る必要もあるため、「放出開始時間」に置き換えることとする。これに伴い附属書 C の記載も見直す。

<コメント No.5>

前標準に記載されていた「レベル 3PSA 実施手順の概要」については、本記載内容は各箇条の一般事項に記載があるため、復活は見送ることとする。

<コメント No.17>

本コメントの対応結果は、各箇条のタイトルに水平展開する。

<コメント No.20>

「移行率」は、本文と用語の定義の両方で記載があるため、用語の定義 3.1 を削除することとする。本文 p.12 の移行率の説明については、コメント対応表に示した内容にて対応する。「単位沈着率」の部分は誤記のため削除する。本文なので「できる」ではなく「する」とする。本文と附属書で同じ文章が出ているため、担当委員にて調整し、次回分科会に対処案を提示することとなった。p.201, h)についても同様に見直す。

<コメント No.24>

本コメントの意図が理解できないとの意見があった。リニアで評価すると低線量被ばくによる費用が莫大になり、相対的に近隣で被爆した人の値が低くなる懸念を示しているのでは、といった意見があった。本間主査より越塚委員へ質問の意図を改めて確認することとなった。

<コメント No.30>

「分科会で相談」としていたが誤記であった。箇条参照箇所における箇条タイトルは取ることとする（他の箇所と同様）。

<コメント No.34>

経済影響のところはもう一回見直すため、このままとする。タイトルに関するコメントは拝承とする。

5. 主査指摘への対応について (P8SC22-4)

本間主査より、現状の標準案に対して今後充実させるべき内容について説明があった。SOARCA の記載については、現状の記載では不確実さ解析の概要のみなので、記載を充実させる必要がある旨説明があった。また、3. 経済影響については何か気がつくものがあるれば、記載を充実させること、さらに JNES からの受託研究で JAEA にて実施された経済及び環境影響の研究が過去にあり、コストベネフィット評価の参考になる文献があることが紹介された。今回の附属書追加の位置づけは、標準委員会意見募集結果の指摘への対応及び企画セッションを踏まえた新知見の反映、とすることになった。主な質疑は以下の通り。

Q：1. 及び2. で実施した調査結果は、標準のどの部分に反映させるのか。

A：田原委員の担当分に追加するイメージである。新たに附属書を追加することなどは考えていない。

Q：1. の「レベル 3PRA の条件」とは、解析条件のことか。

A：おそらくその通りである。ソースターム等の入力条件や、どこのサイトといった情報がそれに該当する。

C：すそ切りの話は、SOARCA の 5.7 のところで扱われている。

A：1. ①②は、「解説 2.3 レベル 3PRA (p.212)」の適用の後にくっつける。

A：1. ③はそれぞれ標準案の以下の部分に反映することとする。

6.3 Offsite～：附属書 L (参考) リスクの定量化

6.4 Comparison～：附属書 J (参考) 健康影響の評価モデル又は附属書 L

6.5 Sensitivity～：附属書 I (参考) 防護対策による線量低減解析

6. 2016 春の年会企画セッションの結果 (P8SC22-6)

本間主査より、2016 年の春の年会企画セッションの結果について報告があった。特にコメントはなかった。

7. 今後のスケジュール他 (P8SC22-7)

成宮幹事より、今後の予定について説明があった。今後、コメント対応表と新旧比較表の作成依頼がある旨説明があった (5/13 を目途に作業)。特にコメントはなかった。

以上